

生活行為向上マネジメント推進プロジェクト特設委員会からの情報発信

生活行為向上推進プロジェクトニュース

平成 27 年 6 月号

目次／平成 27 年 6 月号 (No.3)

■協会やプロジェクトの動き、国の動き

1. 私と MTDLP
2. 27 年度 5 月～6 月のプロジェクトの活動
3. 制度情報

■プロジェクトからの連絡

1. 関連事業チームから
平成 27 年度 地域支援事業関連活動状況確認調査のお願い
2. 推進連携チームから
 - ①連携システム 2014 の運用についてのごお願い
 - ②MTDLP 関係メディア、雑誌情報
 - ③平成 27 年度 生活行為向上マネジメント推進プロジェクト事業助成

■ 協会やプロジェクトの動き、国の動き

1. 私と MTDLP

基本構築チーム リーダー 石川隆志

大学に移り 24 年目になりました。病院で仕事をしてきたことが、つい数年前のように思い出されるのですが、ずいぶん長い時間が経ちました。学生の教育にたずさわり、また、これまでと違う領域での経験や県士会や OT 協会の活動を通して、多くのことを学ぶ機会を与えていただきました。MTDLP 推進プロジェクトもそのうちの一つです。

MTDLP は OT 協会が厚生労働省老人保健健康増進等事業の研究助成を受けて生み出された産物です（現在進行形ですが…）。推進プロジェクトでは作業療法が国民の健康増進や QOL 向上に寄与することができることを、これまでの研究事業の蓄積を通じて明らかにしてきました。

私自身も何かをすること、作業をすることが、対象者の方々に影響を与えることを実感してきました。ただし、影響にはプラスもマイナスもあります。MTDLP にも同様のことがいえます。まずは、対象者の基本的能力、応用的能力、社会適応能力のアセスメント、ADL や IADL、合意した生活行為についての分析がしっかりとできることが必要です。また、マネジメントをしていくためには、対象者本人のみならず、ご家族や関連職種など、多くの人たちとコミュニケーションをとり、連携し

ていく能力も不可欠です。これらについては、私たちは組織的な教育をこれまで十分に受けてこなかったように感じています。



推進プロジェクトは私たちのマネジメントの能力を育む機会になっていると思います。成果があがらなかったり失敗したりで落ち込むこともありますが、より良い状況を目指して役割を果たしていきたいと考えています。どうぞ今後ともよろしくごお願いいたします。

2. 平成27年5月～6月のプロジェクトの活動

5/23～24 生活行為向上マネジメント全国推進会

MTDLP推進プロジェクト担当理事の土井理事をはじめ、谷川プロジェクトリーダー、各班のリーダー、班員より、従来のものからさらにバージョンアップした内容のものが報告されました。駆けつけた中村会長からは、プロジェクト、推進委員に向けて「やっここまで来た。今やる時！」と檄が飛びました。会長も2日間の会議に申し出て出席していただき、心強い限りでした。



今年度よりチーム編成も一新され、谷川プロジェクトリーダーのいうOTが跳ばなければならないハードル（生活行為の視点を持つ、対象者の主体的な生活課題を解決できる等）がぐんぐん迫ってきている社会的背景もあり、フロアからも非常に活発な意見が出されました。

大変内容の濃い2日間であり、各県士会での課題も見えたのではないかと思います。みんなでハードルを跳び越えていけたら、OTにとって、国

民にとって明るい未来が開けていく気がします。



5/31 47都道府県委員会

協会の重点課題であるプロジェクトの取り組みは様々な協会の機能を生かした普及を図らねばなりません。今年度から設置された47都道府県委員会は士会と協会との連携を強化するものであり、毎回プロジェクトから事業経過報告、推進のための協力依頼を行っています。

5月31日に行われた47都道府県委員会では2年間のプロジェクトが目指す具体的な目標数値とそのための戦略を説明しました。職能団体としても非常に重要な局面を迎えていることをご理解いただいたと感じています。プロジェクト推進委員が各士会で士会組織と一体となった推進が図られるよう、47都道府県委員会との連携を強力に進めていきます。（プロジェクトリーダー 谷川真澄）

3. 制度情報

《高齢者の地域における新たなリハビリテーションの在り方検討会》

今般、高齢者の地域におけるリハビリテーションの新たな在り方検討会報告書が取りまとめられましたので、お知らせいたします。

今後の高齢者のリハビリテーションの具体的

な内容が示されています。その内容は、今回の介護報酬改訂の内容にも連動しているものであり、ぜひ一読していただくようお願いします。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000081906.html>

《介護予防・日常生活支援総合事業》

介護予防・日常生活支援総合事業の円滑な実施のため、介護予防・日常生活支援総合事業の基本的考え方、事務処理手順及び様式例等について、お知らせします。

て、お知らせします。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000074126.html>

■ プロジェクトからの連絡

1. 関連事業チームから

地域支援事業対策班 班長 寺門 貴

平成 27 年度 地域支援事業関連活動状況確認調査のお願い

各市町村において「新しい地域支援事業」への移行が進んでいるかと思えます。昨年同様、地域支援事業に関わる作業療法士の実態調査を行います。なお、昨年の調査内容に下記項目を加えております。お忙しいところ恐縮ですが士会単位での情報収集よろしくお願い致します。

* 追加項目

- ・認知症初期集中支援チーム
- ・認知症カフェ
- ・行政等に対して広報活動を行ったか？
 - * 社会福祉協議会追加
- ・行政側から作業療法士に期待することは何か？
 - * 行政との対話が前提
- ・他職種に対して広報活動を行ったか？
- ・住民(NPO、地縁組織、ボランティア団体等) に広報活動を行ったか？

○調査実施期間:10 月ごろ ○調査表回収:11 月ごろ ○実施状況報告:12 月推進会議

2. 推進連携チームから

連携推進チーム 班長 濱田 正貴

① MTDLP 関係メディア、雑誌情報

◎連載中！ケアマネージャーへの普及、連携

「月刊ケアマネジメント」 環境新聞社 1,234 円／1 冊 ケアマネージャーための月間誌

「したい」を「できる」に変える生活行為向上マネジメント

高齢者の生活行為が向上した事例を通じ、どういった利用者のニーズがあった場合に OT と連携し、どのように連携すれば利用者に最もよい支援になるかを知っていただく。

見開き 2 ページで 2014 年 7 月号から 10 回連続で毎月連載、10 人の OT のリレー形式

◎期待の新刊！「事例で学ぶ 生活行為向上マネジメント」

あの黄色本「作業の捉え方と評価・支援技術」発刊から 4 年、さらに熟成された MTDLP について新たに 18 の事例を揃えて、協会の著作として発刊されました。これから MTDLP に取り組もうとしている OT、養成校の教科書として、他職種からも注目を浴びています。

是非、士会員の皆様にご紹介下さい。

「事例で学ぶ 生活行為向上マネジメント」
一般社団法人日本作業療法士協会編著 医歯薬出版株式会社 4,000 円(税抜)

② 連携システム 2014 の運用についてのお願い

・「情報報告書」の発信について

連携システム 2014 では、推進委員からプロジェクトへの「情報報告書」を使用して、随時の情報発信ができますが、協会事務局宛での膨大なメールの迅速な処理のため、メール送信する際、メール件名と本文の冒頭に「MTDLP 情報報告書 ○○士会」という文言を必ず書き込んで下さい。受信後、内容に対しての返答や確認は、連携システム班員が個別に行います。

③ 平成 27 年度 生活行為向上マネジメント推進プロジェクト事業助成

研修会事業に是非御活用下さい。

第 1 回 7 月 1 ～ 7 月 31 日(申し込み期間の変更がありました：期限内に必着)です。

編集／生活行為向上マネジメント連携推進チーム（担当：濱田）

協会事務局からのお願い

~~applemtdlp@jaot.or.jp~~ は MTDLP 関係者への一斉メールです。

件名が【apple・・・】で始まる事務局からのメールはプロジェクト関係者 100 名以上へ向けた一斉メールです。よって、事務局から届いた一斉メールに対してそのまま返信すると、100 人以上への返信になってしまいます。そうすると、私宛でないメールが届いたことを事務局に知らせようとまた apple を使って返信するとそれが一斉メールで 100 名以上に届くこととなります。一斉メールの連鎖で収集がつかなくなります。一斉メールの使用は事務局のみとなっています。分かりやすくするために今年度から apple を付けました。

正しいメールアドレス
はこちら

mtdlp@jaot.or.jp

メールアドレスのご確認を！

・事務局への発信は、上のメールアドレスへ。お間違えのないように。